

<p>1日 (日) ミカ書 5章</p>	<p>「エフラタのベツレヘムよ。お前はユダの氏族でいと小さい者。お前の中から、わたしのために、イスラエルを治める者が出る。」(1節)。イスラエルの復興が起こるために、主は、過ちを整えられ、新しい契約を、弱く小さい存在から明らかにされる。わたしの生活の小さくされた存在とは一体だれでしょうか。</p>
<p>2日 (月) ミカ書 6章</p>	<p>「わが民よ。わたしはお前に何をしたというのか」(1節) 「主の恵みの御業をわきまえるがよい」(5節後半)。主は、イスラエルに何の悪いことをしたのか。エジプトから導き上り、奴隷から解放してくれた主の恵みの御業はどこに行ってしまったのか。わたしへの恵みの御業を心にとめ、主の告発に耳を傾けたい</p>
<p>3日 (火) ミカ書 7章</p>	<p>「主は再び我らを憐れみ、我らの咎を抑え、すべての罪を海の深みに投げ込まれる」(19節)。主の慈しみから離れたイスラエルは、主の救いを待ち望む。主が、裁きの日を前に、主に立ち帰るイスラエル。「主なる神こそが私の救い」ということを賛美する者とされる共同体としてください。</p>
<p>4日 (水) ナホム書 1章</p>	<p>「主は恵み深く、苦しみの日には砦となり、主に身を寄せる者を御心に留められる」(7節)。主の怒りが、ニネベにくだる。主の厳しい言葉が語られる。主の憤りは、火のように降り注ぐが、主ご自身は、恵み深く、苦しみの日には、砦となり、主に委ねて歩む者に目を止めてくださる。</p>

<p>5日 (木)</p> <p>ナホム書 2章</p>	<p>「見よ、良い知らせを伝え、平和を告げる者の足は山の 上を行く。ユダよ、お前の祭りを祝い、誓願を果たせ」(1 節)。ヤコブの誇り、イスラエルの誇りを主が回復し てくださるが、それまでには、略奪があり、荒らされ た大地を見る。破壊と荒廃と滅亡の後に、主の良い知 らせがあることを心にとめたい。</p>
<p>6日 (金)</p> <p>ナホム書 3章</p>	<p>「お前を慰めるものはどこを探してもいない」(7節)。ナ ホムを通して語られた預言は、主の怒りの大きさを示 している。破壊されるニネベは、だれもその荒廃を嘆 いてもくれない存在。慰めてくれる者はどこにもいな いが、ナホム (慰める者) を通して、語られる預言の 言葉は、慰めとなるのだろう。</p>
<p>7日 (土)</p> <p>ハバクク書 1章</p>	<p>「わたしが、あなたに「不法」と訴えているのに、あなたは 助けてくださらない」(2節)。預言者ハバククの嘆きは、 主との対話。神の正義がねじ曲げられる中で、神と対 話をし、神の義さに生きる者とされたハバククの姿に 励まされつつ、主との関係を見直しつつ、神賛美する 共同体としてつくり上げられることを祈って。</p>
<p>8日 (日)</p> <p>ハバクク書 2章</p>	<p>「幻を書き記せ。走りながらでも読めるように、板の上には はっきりと記せ」(2節)、「水が海を覆うように、大地は主 の栄光の知識で満たされる」(14 節)。ハバククは主の 答えを聴く。「わたしの幻は決して人を欺かない」と。 「あなたの義さはどこにあるのですか？」という私たち の嘆きは、主の栄光を知る喜びに必ず変えられる。</p>